

## 資 料

- I 研究・学会大会発表テーマ
- II 「レクリエーション研究」発表テーマ
- III 講演・シンポジウム・特別研究発表テーマ

### I 研究・学会大会発表テーマ

#### 《第1回研究大会》- 1965年 -

1. レクリエーションの価値に関する研究  
(渡辺三城)
2. 仕事と余暇を結ぶレクリエーション理論について  
(瀬口 彰)
3. 都市化過程にある地域住民のレクリエーション意識に関する研究(江橋慎四郎, 池田 勝)
4. レクリエーション意識とその規定要因との関係  
(浅田隆夫)
5. レクリエーション意識の研究 - 中小企業に働く卒業生と比較して -  
(稲垣保彦)
6. 労働者の労働対余暇意識について  
(前川峯雄)
7. 中年以上の主婦を対象としたレクリエーション体操会の指導と実践を通じて -  
(森園澄子, 浅田隆夫)
8. キャンプ・カウンセリングの一考察  
(斉藤仲次)
9. 「Wide-Recreation System」によって実験した児童生徒の教育効果について  
(林 寿彦)
10. 出羽三山地区観光レクリエーション調査  
(阿南文他)
11. ある企業のレクリエーション施設の基本計画と展開例  
(江橋慎四郎)
12. ヨーロッパにおけるレクリエーション運動  
(小川長治郎)

#### 《第2回研究大会》- 1966年 -

13. レクリエーション振興にはたす協同組合の役割りに関する社会学的研究  
(影山 健, ほか)
14. 琵琶湖のレクリエーションに関する計画学的

的研究 (阿南文也)

15. 簡単にできるスポーツの体系および考案  
(三隅達郎ほか)
16. サバービア (Saburbia) におけるスポーツ, レクリエーションに関する研究 その1・研究の意図と方法  
(前川峯雄ほか)
17. サバービアにおけるスポーツ, レクリエーションに関する研究 その2・スポーツ, レクリエーション現状  
(同上)
18. サバービアにおけるスポーツ, レクリエーションに関する研究 その3スポーツ, レクリエーション意識  
(同上)
19. 年令からみたレクリエーション活動分化の動向  
(浅田隆夫)
20. 大阪市を中心とする地域の中小企業従業員レク  
(西山勝次, 島崎秀雄)
21. 職場レクリエーションの研究 - とくに週休2日制の職場について -  
(秋吉嘉範)
22. レクリエーションからみた社交ダンスの在り方  
(深町一夫)
23. ディキャンププログラムについて  
(斉藤仲次)
24. レクリエーションにおける使用用語の反省  
(三隅達郎)
25. 「楽しみ」の意識について  
(瀬口 彰)
26. レクリエーション意識の変化について  
(稲垣保彦)
27. インテグレートッドパーソナリティとコ・レクリエーション  
(山崎 進)

#### 《第3回研究大会》- 1967年 -

28. 辺地校と養護施設の交流林間学校実施記録について  
(三尾輝行)
29. 高校生の余暇活動の実態および余暇観についての研究  
(斉藤耕三)

30. 教員の勤務時間の確立に伴う学校におけるクラブ活動の将来について (前川峯雄)
  31. 教員キャンプに関する研究(看護学生の場合) その1・健康観について(宮下桂治ほか)
  32. 教員キャンプに関する研究(看護学生の場合) その2・キャンピングの評価について (同上)
  33. 教員キャンプに関する研究(看護学生の場合) その3・生活構造における教育キャンプの位置 (同上)
  34. 職場におけるレクリエーション・スポーツの実施とその影響について (野間口英敏ほか)
  35. 主婦の生活態度とレクリエーションについて (田村喜代)
  36. レクリエーションの意識と態度について (西山勝次ほか)
  37. レクリエーション意識の研究(第3報) (稲垣保彦)
  38. レクリエーション運動に影響する要因について その1・レクリエーション活動の分析 (片岡暁夫)
  39. ゴールデン・ウィークにおける東京都区部居住者のレクリエーションの実態調査(昭和42年度) (林 実)
  40. 一宮市におけるレクリエーションに関する調査研究—事業主のスポーツ活動に対する態度— (長谷川純三ほか)
  41. 農村におけるレクリエーションの摂取容態について (鈴木勝衛)
  42. 農村生活の変化とこれに対するレクリエーション組織の発展に関する研究(団 琢磨)
- 《第4回研究大会》—1968年—
43. 高等学校ホーム・ルーム・レクリエーションに関する研究 (長尾宏一郎)
  44. 子供のレクリエーションと安全能率開発について (稲垣保彦)
  45. 体育専攻学生のレクリエーション意識とクラブ活動について (松浦三代子)
  46. 過疎地域におけるこどもの生活とあそび (団 琢磨)
  47. 学童におけるSnorkelの取扱い指導に関する二・三の研究 (山本武彦ほか)
  48. 職場におけるレクリエーション活動の機能に関する研究・第1報 (前川峯雄ほか)
  49. 某モデル職場におけるレクリエーション実施の影響に関する研究 (越智三王ほか)
  50. 職場スポーツクラブに関する調査研究 (浪越信夫ほか)
  51. 戦後のレクリエーション文献に関する研究 (守能信次ほか)
  52. レクリエーションに対するイメージの研究(第一報) (高橋和敏)
  53. 英国のPhysical Recreationの最近の動向について—特にC, C, D, Rの刊行誌Physical Recreationを通して— (浅田隆夫ほか)
  54. ORRRCのレポートとCalifornia Public Outdoor Recreation Planaの比較研究 (荘司正徳)
  55. 米・独におけるレクリエーション行政の比較 (川口 貢)
  56. 教育キャンプに関する研究(看護学生の場合) その1・健康観について(山本武彦ほか)
  57. 教育キャンプに関する研究(看護学生の場合) その2・キャンピングの評価について (同上)
  58. 教育キャンプに関する研究(看護学生の場合) その3・生活構造における教育キャンプの位置 (同上)
  59. 大学正課体育におけるキャンプ・クラフト指導法の研究(正課体育におけるキャンプ・クラフトの位置づけ) (今井 毅ほか)
  60. 勤労青年の野外活動に関する調査研究 (江橋慎四郎ほか)
  61. 離島における主婦の生活意識と余暇活動 (田村喜代)
  62. 余暇行動における職業的地位・役割因子の分析 (池田 勝)
  63. 19世紀後半の米国初・中教育におけるレクの位置 (片岡暁夫)
  64. 20世紀初期のアメリカにおけるレクリエーション指導者養成の過程 (今村浩明)

65. Physical Exercise における概念の変容過程 (浅田隆夫)
- 《第5回研究大会》— 1969年—
66. 小学校におけるレクリエーション教育の意義と位置づけについて (生活教育を再検討する立場から) (弘中栄子)
67. 米国諸州の体育指導要領における Recreation の原理 (片岡暁夫)
68. 米国における地域社会のレクリエーションについて (木庭修一)
69. 英国における Physical Recreation の近代化 (特に19世紀～20世紀初頭について) (浅田隆夫)
70. 野外教育・学校キャンプと余暇教育の関連について (斉藤仲次)
71. キャンプの教育的機能に関する研究 (その3) (山本武彦ほか)
72. 老人の余暇に関する研究 (江橋慎四郎ほか)
73. 岡山県奈義町における家庭レクリエーションの振興 (井戸和郎)
74. 中小企業におけるレクリエーション活動について (池田豊彦)
75. レクリエーション疲労回復に関する研究 (バドミントンが都立第一商業高校夜間定時制高校生の疲労とどう関係しているか) (荘司正徳ほか)
76. 週休二日制実施と職場レクリエーションの動向 (特にレクリエーション管理の問題を中心として) (高橋健夫)
77. 職場におけるレクリエーション活動の機能に関する研究 (前川峯雄ほか)
78. 観光とレクリエーションの関係について (山口一重)
79. 社会人の余暇行動に関する分析 (池田 勝ほか)
80. 昭和40・60年国民外出回数推計 (林 実)
- 《第6回研究大会》— 1970年—
81. 都市児童における遊戯の発達課題 (高橋健夫)
82. 都市家庭における遊戯教育の検討 (弘中栄子)
83. 都市における児童の遊戯的文化内容についての調査と分析 (片岡暁夫)
84. 都市における社会制度と児童遊戯の関係 (川口 貢)
85. 都市の物的環境と児童遊戯についての一考察 (荘司正徳)
86. 総括—遊戯の近代化と構造 (浅田隆夫)
87. 家庭におけるレクリエーション種目の分類 (木村静枝ほか)
88. 職場におけるレクリエーションの機能に関する研究 (第三報)
89. ナワなし「ナワとび」動作のエネルギー代謝に関する研究 (三宅義信)
90. キャンピングの教育的機能に関する研究 (その4) (山本武彦ほか)
- ※レクリエーション研究 第6・7合併号— 1970年—
91. レクリエーションへの想い (三隅達郎)
92. 余暇教育序論 (高橋真照)
93. レジャーラーとしての芭蕉の研究素描 (岡田日郎)
94. レクリエーション・リーダーの任務に関する原理的考察 (片岡暁夫)
95. 大学の正課体育における経験等の現在の余暇生活に及ぼす影響に関する調査報告 (江橋慎四郎ほか)
- 《第1回学会大会》— 1971年—
96. Stanley Parker の「Work—Leisure」論に関する一考察 (高橋健夫ほか)
97. ニューディール政策とレクリエーション (瀬口 彰ほか)
98. 遊びの考察 (青木泰三)
99. ゲーム指導法の実験的考察— GSR に関する分析を中心に— (高橋和敏ほか)
100. わが国に於ける地域フォークダンス団体及び指導者の意識と活動 (服部洋子ほか)
101. 青年団におけるレクリエーション活動の現状と問題点 (川口文子)
- ※研究会当時の機関誌
102. 地域社会のレクリエーションに対する大学の寄与 (斉藤定雄)

103. 職場におけるレクリエーション実施の影響に関する研究 (野間口英敏ほか)
104. 社会教育施設におけるレクリエーションの指導について—北九州市立玄海青年の家における現状と課題— (音成彦始郎)
105. わが国における体育・スポーツ施設利用の社会学的分析 (厨 義弘ほか)
106. キャンプにおける野外教育プログラムについて (齊藤仲次)
107. キャンプ生活における実証的研究—富士山麓・山中湖のキャンプ場を中心にして (鈴木孝雄)
108. キャンプ教育的機能に関する研究—社会的感受性訓練としての可能性について (山本武彦ほか)
109. キャンプの教育的機能に関する研究—社会的感受性訓練としてのオリエンテーリングの効果について— (同上)
110. 生活指導としての病院レクリエーションについて (古賀正宏ほか)
111. 精神病院におけるレクリエーション療法に関する研究 (武井正子ほか)
112. 精神病院におけるレクリエーション療法の新しい試み(その1)—レクリエーション療法の理論的背景— (浅井正昭ほか)
113. 精神病院におけるレクリエーション療法の新しい試み(その2)—個人の体力・運動機能およびレク要求に応じたレク療法の実際— (同上)
114. 精神病院におけるレクリエーション療法の新しい試み (同上)
115. 東京都野外スポーツ・レクリエーション施設計画のための調査研究(報告) (出口一重ほか)
- 《第2回学会大会》—1972年—
116. 遊びの考察 (青木泰三)
117. レクリエーション理論の妥当性に関する研究 (池田 勝)
118. レクリエーションの意味論的検討 (藺田硯哉)
119. スポーツとピューリタニズム (小野園芳)
120. スポーツ意識の社会的背景 (片岡暁夫)
121. 個人の属性からみた青少年のスポーツ意識 (山市 孟)
122. スポーツ意識とクラブ活動の問題 (川口 貢)
123. スポーツ意識とスポーツ種目の関連 (荘司正徳)
124. 総括・スポーツ教育試論(中・高校生スポーツ意識調査の結果) (浅田隆夫)
125. レジャー研究におけるM・カプランの位置 (金崎良三)
126. 本学学生にみられるレジャーレクリエーション観 (仲村 要, 瀬口 彰)
127. 地域におけるスポーツ普及に関する一考察 (森部宏英ほか)
128. 主婦のレクリエーション活動の動向について (大森雅子ほか)
129. 主婦の自由時間利用について (佐藤幸子)
130. 福島市内の職場レクリエーション・クラブ実態について (佐瀬一夫ほか)
131. 主婦のスポーツクラブの現状 (鈴木孝雄)
132. 精神病院におけるレク活動・指導考察 (末吉光彦)
133. レクリエーション療法に対する新しい試み (武内三二)
134. レクリエーション療法に対する新しい試み (同上)
135. 精神病院におけるレクリエーションに関する研究(その2) (鈴木 定ほか)
136. キャンプ・プログラムの研究—ボランティア・ラリーの効果について— (井上忠夫ほか)
137. 人間関係訓練としてのキャンプの方法論について (宮下桂治ほか)
138. アメリカにおける私設組織的教育キャンプの経営に関する実態について (齊藤仲次)
139. フォークダンス普及に関する研究—学校におけるフォークダンス指導について (吉永トシ子ほか)
140. 国際交流の場におけるフォーク・ダンス・民踊についての考察 (池間博之)
141. レクリエーション指導者に関する研究2—職場レクリエーション・リーダーの養成

- 情況について — (秋吉嘉範) (須田柳治ほか)
142. パーソナリティとレクリエーション活動との  
相関について (川口文子ほか)
143. 企業の第一線監督者(フォアマン)を対象  
としたレクリエーションに関する調査  
(千葉和夫)
144. ゲーム指導法の実験的考察(Ⅱ)  
— G・S・Rによる分析を中心に —  
(高橋和敏ほか)
145. ゲームに対するイメージの比較考察  
— SD法によるグループの比較 —(同上)
146. モータリゼーションに関するナショナル・  
コンセンサスの形成と新しい交通公園  
(浅井正昭ほか)
147. 新しい交通公園とその役割 (同上)
148. 新しい交通公園における具体的なシステム  
について (同上)
149. 新しい子供の遊び場計画とその利用実態に  
について (杉尾邦江)
- 《第3回学会大会》— 1973年—
150. 「スポーツ参加」における障害条件  
(山市 孟)
151. 産炭過疎地域におけるレクリエーションの  
研究(1) (金崎良三)
152. レクリエーション集団の現状と問題点  
(1) 集団の規約の有無による比較  
(佐瀬一夫ほか)
153. 地域のレクリエーション講習会の需要の増  
大と、それが家庭に及ぼす影響について  
(佐藤幸子)
154. コミュニティーレクリエーションセンター  
としてのYMCAに関する事例研究  
(永吉宏英)
155. 野外レクリエーションの適正環境に関する  
研究Ⅰ・Ⅱ (進工五十人)
156. 頸肩腕障害対策の実験的研究(塩谷宗雄)
157. 少年矯正教育におけるレクリエーション  
— カナダ・オンタリオ州を例にとって —  
(諸星 裕)
158. 精神病院におけるサイクリング療法について  
(音田 篤ほか)
159. プレセラピーのプログラムに関する研究
160. 現代レクリエーションの問題点  
(長谷川修一郎)
161. 我国キリスト教主義・レクリエーション運  
動の歩み(その1)成瀬・松浦・安部の論説  
について (泰 芳江)
162. レクリエーションの意味論的研究(その2)  
(藪田碩哉)
163. 最近のレジャー・レクリエーション観につ  
いての—考察—特に京都市周辺部小企業従  
業員を中心に — (仲村要, 瀬口彰)
164. 新聞にみるレクリエーションへの示唆  
(西山勝治)
165. 子供の体育遊びに関する研究(その3)  
— 広場での遊びの問題点 (松本真言)
166. 組織キャンプに関する—考察—学校にお  
けるキャンプの再検討 — (山本英毅)
167. 露営キャンプについて (野沢 巖)
168. 教育的効果を高めるキャンプファイヤーの  
運営について (河村文人)
169. 余暇におけるスポーツサウナの位置づけ  
(神山須真ほか)
170. 学生の夏期休暇利用法に関する実態調査  
(瀬崎節子)
- 《第4回学会大会》— 1974年—
171. 老人の健康生活とスポーツ (秋吉嘉範)
172. 日本人のスポーツ規範 — 社会科学的アプ  
ローチ — (難波邦雄ほか)
173. スポーツクラブの管理運営に関する試論  
(宮下桂治ほか)
174. キャンプの教育的機能に関する研究 — 感  
受性訓練の応用とその効果 — (井上忠ほか)
175. レクリエーションリーダー研修会における  
態度の変化について (川向妙子ほか)
176. レクリエーション指導効果に関する研究  
(その1) — レクリエーション集団の性別構  
成比のさがいによる指導効果の差異につい  
て — (外木場達雄ほか)
177. 大学生の余暇活動調査 (日比野朔郎)
178. 大学生のレクリエーションの経験と意識に  
ついて (山本久乃武ほか)
179. スポーツ教室にみられる女性の余暇観(そ

- の1) (寺岡一郎)
180. サイクリングの社会的考察 (青木泰三)
181. ポーランドにおける Physical-recreation  
の推移 (清和洋子)
183. 最近のレジャー, レクリエーション観をめ  
ぐる問題点について (仲村 要ほか)
184. フィジカル・レクリエーション成立に影  
響を与える諸要因の研究 — 林の数量化理論  
Ⅱ類を用いて — (江橋慎四郎ほか)
185. 生活時間調査による「レジャー」の測定  
(池田 勝ほか)
186. 新入生の健康管理について (塩谷宗雄)
187. 視力障害児のあそびの実態とその意識に関  
する研究 — 第1報, 準旨について —  
(佐瀬一夫)
188. 精薄児のレクリエーションセラピーに関す  
る一考察 (梅田靖次郎)
- 《第5回学会大会》— 1975年—
189. 企業体における週休2日制の完全実施と厚  
生・スポーツレクリエーション施設の実態に  
ついて (佐藤幸子)
190. 家族レクリエーションについての研究  
— 夏休み中の小学生のレクリエーション—  
(秋吉嘉範)
191. 陸上競技における中・高年者運動競技能力  
の事例的研究 (近藤公夫)
192. 参加児童を中心としたキャンプの試み  
— 短期キャンプによる— (石井英行ほか)
193. キャンプの教育的機能に関する研究  
— システム化の問題について —  
(井上忠夫ほか)
194. スポーツクラブ管理運営に関する試論  
(宮下桂治ほか)
195. 学生の音楽に関する嗜好調査 (久富さよ子)
196. 女性の余暇における公共体育施設の位置づ  
け (国立西ヶ丘競技場スポーツサウナ及び婦  
人スポーツ教室 (武井正子, 神山須真)
197. 高年層の保健意識行動に関する研究  
— 就業面からのアプローチ — (原田憲一)
198. 高年層の保養意識行動に関する研究  
— 就業面からのアプローチ — (加藤泰樹)
199. 地域レクリエーション指導者の活動実態
- 運動的指点から — (千葉和夫)
200. ポーランドにおける Physical Recreation  
— 第二次世界大戦後 — (清和洋子)
201. 旅の考察 — 宿泊の意識と実態から—  
(青木泰三)
202. コミュニティ・観光レクリエーション構想  
計画に就いて — 鳥取県西部地域をケース・  
(進工五十人)
203. レクリエーション・イメージの構造について  
(金崎良三)
204. 日常用語にみられるレクリエーション・レ  
ジャー観について (仲村要, 瀬口彰)
205. 権田保之助に見る娯楽概念の変貌  
(蘭田碩哉)
206. 組織キャンプの自我概念の変化に及ぼす  
影響 (野沢 巖ほか)
207. 視覚障害児のあそびの実態とその意識に関  
する研究 — 第二報, 先天眼と後天眼の比較研  
究 — (佐瀬一夫)
208. 肢体不自由者のバドミントンについての研究
- 《第6回学会大会》— 1976年—
209. 千葉市余暇情報センターについて  
(烏海宗一郎)
210. 保養行動の顕現化に関する一考察  
(加藤泰樹ほか)
211. 保護意識と保護施設に対する布望について  
(松原周信ほか)
212. レクリエーション教育の一考察(1)  
(矢川律子ほか)
213. レクリエーション教育の一考察(2)  
(同上)
214. レクリエーションの形式観と価値観につ  
いて (沢村 博)
215. 視覚障害児のあそびの実態とその意識に関  
する研究 (第3報) (佐瀬一夫)
216. ぶらさがり健康法の実験的研究  
(塩谷宗雄ほか)
217. 小学生の野外活動指導に関する一考察  
(鈴木孝雄)
218. 冬の林間学校の自由活動について  
(山田 誠)
219. 小学生の林間学校における期待と成果につ

- いての実践的研究 (富松京一ほか) (神崎清一ほか)
220. 高齢者の近隣意識の実態について (渡辺本江ほか)
221. シニア・エージのレクリエーション活動の動向について (同上)
222. 老後の生活意識と世代間交流について (原田憲一ほか)
223. 民踊教室の実態とその意識について (茂泉陽子ほか)
224. 一過性組織キャンプ断続性組織キャンプについての実践的研究 (野沢 巖)
225. レクリエーション登録指導者の活動実態について — 運動的視点から — (千葉和夫)
- 《第7回学会大会》— 1977年 —
226. 余暇とコミュニティ — コミュニティ活動とその拠点づくり — (鳥海宗一郎)
227. 日常生活圏におけるコミュニティ施設整備のための基礎的研究一般住民及び活動グループからみた施設相互の関係 (木村 誠)
228. パキスタン共和国におけるレクリエーション緑地の計画 (近藤公夫)
229. 遊戯論の座標 (近藤英男)
230. レクリエーションの概念に関する原理的考察 (平井 章)
231. 「社会体育」論におけるレクリエーションの位置づけについて (浜口義信)
232. RE-CREATIVE BEHAVIOR の研究 (澤村 博)
233. 戦後における「Leisure と Recreation の論義」の展開過程に関する一試論 (小田切毅一)
234. ポーランドにおけるレクリエーション指導員の養成 (清和洋子)
235. レクリエーション教育と野外活動 — 日本とフィリピンの比較的研究 — (G.lda Lasat ほか)
236. 受験期にある青少年の余暇生活に関する研究 — とくに健康および体力への影響について (池田 勝)
237. 二部学生の生活・余暇時間に関する調査 (渡辺岑生ほか)
238. 生活時間配分調査による余暇構造分析
239. トーチの照度と燃焼時間に関する実験的研究 (大石示郎ほか)
240. 井桁の照度と燃焼時間に関する実験的研究 (同上)
241. 高齢者の健康状態と生活意識 (音海哲子ほか)
242. 高齢者の学歴と生活意識について (同上)
243. 高齢者の旅行意識と実態 (同上)
244. 高齢者の仕事の有無からみた余暇活動旅行について (同上)
245. 教育効果を高めるオリエンテーリングの一考察 (国馬善郎)
246. 精神障害者(分裂病)におけるキャンプの影響について (富永京一, 手塚一郎)
247. 頸肩腕障害に対する治療的レクリエーションの実践的研究 — 運動療法のあり方に関して — (大塚孝夫)
248. 企業内における健康づくりとその影響に関する実験的研究 (田端太, 塩谷宗雄)
249. 国際線スチュワーデスにおける勤務後の過ごし方と時差への対応について (山崎律子ほか)
250. レクリエーション・リーダーの性格について (西野 仁ほか)
251. レクリエーション指導者の活動実態について — レク運動的機能レベルの分析 — (千葉和夫)
252. キャンプ・カウンセラーの性格的特性に関する一研究 — 特にキャビン・グループに凝集性との関係について — (原田宗彦, 長谷川純三)
253. 教育的組織的キャンプにおけるキャンプカウンセラーの指導に関する研究 — 日本体育大学キャンプ実習の場合 — (森 慶治ほか)
254. スキー実習時における人間関係の深まりに関する研究 (土井浩信, 野沢巖)
- 《第8回学会大会》— 1978年 —
255. 地域社会のレクリエーション活動に関する研究 — 寺分地域と城島地域の比較検討から — (竹内雅和ほか)

256. 新聞にみる「レクリエーション」という語の用例についての考察 (蘭田碩哉)
257. レクリエーション活動種目に関する興味について — 大学生の場合 — (西野 仁ほか)
258. 地域社会のスポーツ振興に関する調査研究 — とくに住民調査の結果を中心に — (塚本真也ほか)
259. 婦人スポーツサークル参加者の健康・意識に関する実態調査 (角田享子ほか)
260. 高齢者の若い世代に対する意識について (杉町百合子ほか)
261. 戦前の林間学校について — 主として「日本学校衛生」誌にみられる資料より — (山田 誠)
262. 厚生運動の一考察 — 特に社会情勢とのかわりに於いて — (坂口正治ほか)
263. 「余暇教育」のための大学体育について (稲垣保彦ほか)
264. “よく遊びよく学ぶ” 児童・生徒の健康および生活状況の特性 (山口泰雄, 長久保賢ほか)
265. キャンプにおける泣きの研究 (飯田 稔)
266. 幼児キャンプ参加者の社会性の発達と母親の養育態度 (諸澄敏之)
267. 幼児キャンプにおけるキャンパー・カウンセラー人間関係, 評定尺度に関する研究 (赤井利男ほか)
268. 看護学校におけるキャンプの実態について (野沢 巖)
269. 女子大生のキャンピング体験と意識に関する調査 (国馬善郎)
270. アメリカにおける Outward Bound School に関する研究 — Doctoral Dissertation を中心に — (井村 仁ほか)
271. 義務教育段階における野外教育の将来 (中間報告) — デルファイ法による将来予測 — (師岡文男ほか)
272. キャンプにおけるカウンセラーのリーダーシップ機能に関する研究 (倉本満枝ほか)
273. 現代レジャーブームの一環としてのスキーブーム (伊藤新子)
274. レクリエーション指導者 (上級・一級) の現状と特性 (神崎清一, 池田勝)
- 《第9回学会大会》— 1975年 —
275. 高齢者のコミュニティー活動に関する実態 — 自主運営の高齢者健康クラブを中心として — (梅津迪子)
276. コミュニティー・スポーツ活動の拠点づくり — 住民の組織化についての実践的考察 — (斉藤源吾)
277. 学校開放施設における一考察 (鈴木孝雄)
278. 市区町村レクリエーション団体の実態について (千葉和夫ほか)
279. ゲームで使用される用具の変遷 (その1)・さいころの形とその使い方 (小林武雄)
280. 幼児における体力測定方法についての一考察 — 従来の方法と興味つけた場合 — (田村岳史, 山崎律子)
281. 農耕従事者レクリエーショントレーニングについて (稲垣保彦, 足立原貫)
282. 体育・スポーツ的レクリエーション活動が身体障害者に果たす役割<四肢麻痺者のケース事例より> (渋谷美和子ほか)
283. 女性のからだと運動について (角田享子ほか)
284. 心理的特性と余暇活動に関する調査研究 — 職業訓練校生を事例として — (小田南州生ほか)
285. レクリエーション活動の社会的構造について (西野 仁)
286. 義務教育段階における野外教育の将来 — デルファイ法による将来予測 — (師岡文男ほか)
287. ビブリオグラフィカルワークの検討と修正に関する研究 — Rolf Meyerson が Journal of Leisure Research Vol. 1, Winter 1969 に発表したものを中心に — (鈴木秀雄)
- 《第10回学会大会》— 1980年 —
288. キャンプにおける女子学生の対人態度の変容 (橋 直隆ほか)
289. 冒険キャンプ経験が中学生の不安に及ぼす影響 (井村仁, 飯田稔)
290. レクリエーションとしてのサイクリング教育



- 特にサイクリングコースのセッティング  
(田崎健太郎ほか)
291. 石川県におけるアウトドア・レクリエーション活動と環境教育に関する実態  
(杉尾邦江ほか)
292. フランスにおける自然公園行政の現状と問題点 — 特にレジオン自然公園のレクリエーション的および社会経済的意義について —  
(守能信次)
293. パーコロジー研究① — 自然空間におけるレクリエーション行動の生態調査と分類 —  
(進士五十八, 小倉きみえ)
294. ゲームで使用される用具の変遷 (その2) — 盤ゲーム分類についての一考察 —  
(小松武雄)
295. ゲーム指導の評価の分析 (末吉守英ほか)
296. 運動経験のもつ意味とレクリエーション指導に関する一考察  
(近藤良享ほか)
297. 女性のからだと運動について — 動きと排尿 —  
(角田享子ほか)
298. コミュニティ・レクリエーションの社会的機能に関する一考察 — 社会的相互作用性と社会的事業参加について —  
(海老原修ほか)
299. コミュニティスポーツの住民組織に関する研究  
(新出昌明ほか)
300. 企業内レジャーと人間関係 — Work Motivation への寄与という観点から —  
(香川 真)
301. 職場レクリエーションの実態調査  
(浅野 晃)
302. ゲートボールに関する調査研究 (1)  
(金崎良三ほか)
303. ゲートボール運動の現状と課題  
(青木泰三)
304. 体育専攻学生の生活時間について  
(瀬戸純子ほか)
305. 社会福祉におけるレクリエーション視点  
(田硯哉ほか)
306. 日本人のレジャー構造に関する研究 — クオリティ・オブ・ライフと関連して —  
(畑 孝幸ほか)

307. 北アメリカにおけるレジャー行動研究の動向  
(原田宗彦)
308. アメリカにおけるレクリエーション指導者の養成方法に関する研究 — 特に現職教育に関して —  
(三浦 裕, 浅田隆夫)

## II 「レクリエーション研究」発表テーマ

### 《第1号》— 1971年—

1. レクリエーションの構造論 (1)  
— 「内句」をめぐる論議 —  
(小田切毅一)
2. レクリエーションの構造論 (2)  
— 「外延」をめぐる — (蘭田硯哉)
3. レクリエーションの構造論 (3)  
— 「内句と外延」をとりまくもの —  
(片岡曉夫)
4. 学卒者の余暇意識と余暇行動に関する調査研究 — とくに大企業に勤務するエリート社員を中心に — 第1報  
(江橋慎四郎ほか)
5. 地域における体育・スポーツ振興の計画化に関する研究の一事例について第一報  
(斉藤定雄)
6. 東京都野外スポーツ・レクリエーション施設計画のための調査研究  
(日本レクリエーション学会委託研究調査委員会)

### 《第2号》— 1972年—

7. 余暇教育に関する基礎的研究 — 都市中学生の生活およびスポーツ意識の実態 —  
(浅田隆夫ほか)
8. レクリエーションおよびゲームに対するイメージの分析 — とくにH労組のレク・リーダーの事例を中心に —  
(高橋和敏)
9. レクリエーション指導者に関する研究 — 性別・年齢別にみた指導者の意識とその実態について —  
(秋吉嘉範)
10. 学卒者の余暇意識と余暇行動に関する調査研究 — とくに大企業に勤務するエリート社員を中心に (第二報) — (江橋慎四郎ほか)
11. 地域における体育・スポーツ振興の計画化に関する研究  
(斉藤定雄)

### 《第3号》— 1973年—

12. 労働と余暇の適応メカニズムの分析  
(池田 勝)
  13. レジャー研究におけるM. カプランの位置  
(金崎良三)
  14. 地域レクリエーションに関する研究  
— 長崎県高島町におけるスポーツ活動—  
(秋吉嘉範)
  15. 地域におけるフィジカル・レクリエーション普及に関する一考察  
(永吉宏英ほか)
  16. 環境系レクリエーションの環境容量に関する計画的な研究序説  
(近藤公夫)
- 《第4号》- 1974年-
17. 都市化過程にある地方都市のフィジカル・レクリエーションに関する事例研究  
(永吉宏英ほか)
  18. 学校レクリエーションの研究  
— 福岡県下の高等学校体育祭・運動会の現状と問題点について—  
(秋吉嘉範)
  19. レク・リーダー研修会における教育効果に関する一考察 — とくにその態度の変化について—  
(高橋和敏ほか)
  20. 生活時間からみた主婦の余暇行動の分析  
(池田 勝ほか)

《第5号》- 1975年-

21. 社会人のフィジカル・レクリエーションに関する研究 — 名古屋市公立高等学校の卒業生の場合—  
(中島豊雄, 坪田暢允)
22. レジャーとレクリエーションの補完関係に関する一考察 — レクリエーションの構造論(その二) —  
(小田切毅一)
23. レクリエーションの意味論 (藺田硯哉)
24. A Typology for the Study of Recreational Decision Styles.  
(D. L. Groves, H. Kahalas)
25. Environmental Meaning.  
— A Case Study — (同上)

《第6号》- 1977年-

26. 戦後の余暇研究 (巻 正平)  
レクリエーション教育に関する研究  
— 中・高校の保健体育教科書及び大学に於けるレクリエーション講義の現状調査—  
(矢川律子ほか)

28. レクリエーション施設に関する技術的検討  
— 陸上トラックの事例研究—(近藤公夫)
29. フィジカル・レクリエーション成立を促す要因分析 — 林の数量化理論第Ⅱ類を用いて—  
(永吉宏英ほか)
30. An Analysis of Values for Development of Recreational Policy.  
(Harvey Kahalas ほか)

《第7号》- 1980年-

31. 心理的特性と余暇活動に関する調査研究  
(塚本真也ほか)
32. レクリエーション参与の社会的要件に関する研究  
(藤原健固)
33. レクリエーションの企画と運営に関する研究 — あそび子どもジャンボリーから—  
(秋吉嘉範)
34. ソビエト連邦における「自由時間とフィジカルレクリエーション」  
(寺島善一)
35. インディアカ試合時の心拍数の変動に関する研究  
(和田 実, 高倉正樹)
36. 全国キャンプ場の実態調査 (前野淳一郎)

Ⅲ 講演・シンポジウム・特別研究発表テーマ

《第4回研究大会》- 1968年-

1. 日本におけるレクリエーションビジョン  
(前川峯雄ほか)

《第5回研究大会》- 1969年-

2. レクリエーション研究の方向と課題  
(1) わが国におけるレクリエーション研究の動向 (団 琢磨)  
(2) レクリエーション研究の独自性 (北森義明)  
(3) 研究会の動行と今後のあり方 (林 寿彦)

《第1回学会大会》- 1971年-

3. 職場生活とレクリエーション活動についての研究 — 特に公務員のレジャー生活の現状と問題点—  
(秋吉嘉範)

《第2回学会大会》- 1972年-

4. 都市化する社会における地域レクリエーションの発展のために

— 地域住民の生活と意識構造 —

- (1) 地域住民意識に基づいた組織(クラブ)作り (会田昭一郎)
- (2) 公営体育施設(体育館)の利用実態から見た地域住民のレクリエーション意識と生活構造 (三原忠雄)
- (3) 都市化地域における生活の変容とレクリエーション意識 (齊藤定雄)

《第3回学会大会》— 1973年 —

5. レクリエーション行政の基本的方向 (福士昌寿)

《第4回学会大会》— 1974年 —

6. レジャーの将来性について (鈴木 広)

《第6回学会大会》— 1976年 —

7. 秋田風土とレクリエーション (工藤英三)

《第7回学会大会》— 1977年 —

8. 富山の風土とレクリエーション (稲垣保彦)

《第9回学会大会》— 1979年 —

9. 現代社会における余暇利用度の研究 (金 命祚)

《第10回学回大会》— 1980年 —

10. 野外レクリエーションと自然保護 (John J. Kirk 博士)
11. 1980年代の動向
  - (1) 80年代のレクリエーション (前川峯雄)
  - (2) 体力作りの発想の転換からレクの発想の転換へ (塩谷宗雄)
  - (3) 問題提起 (三隅達郎)